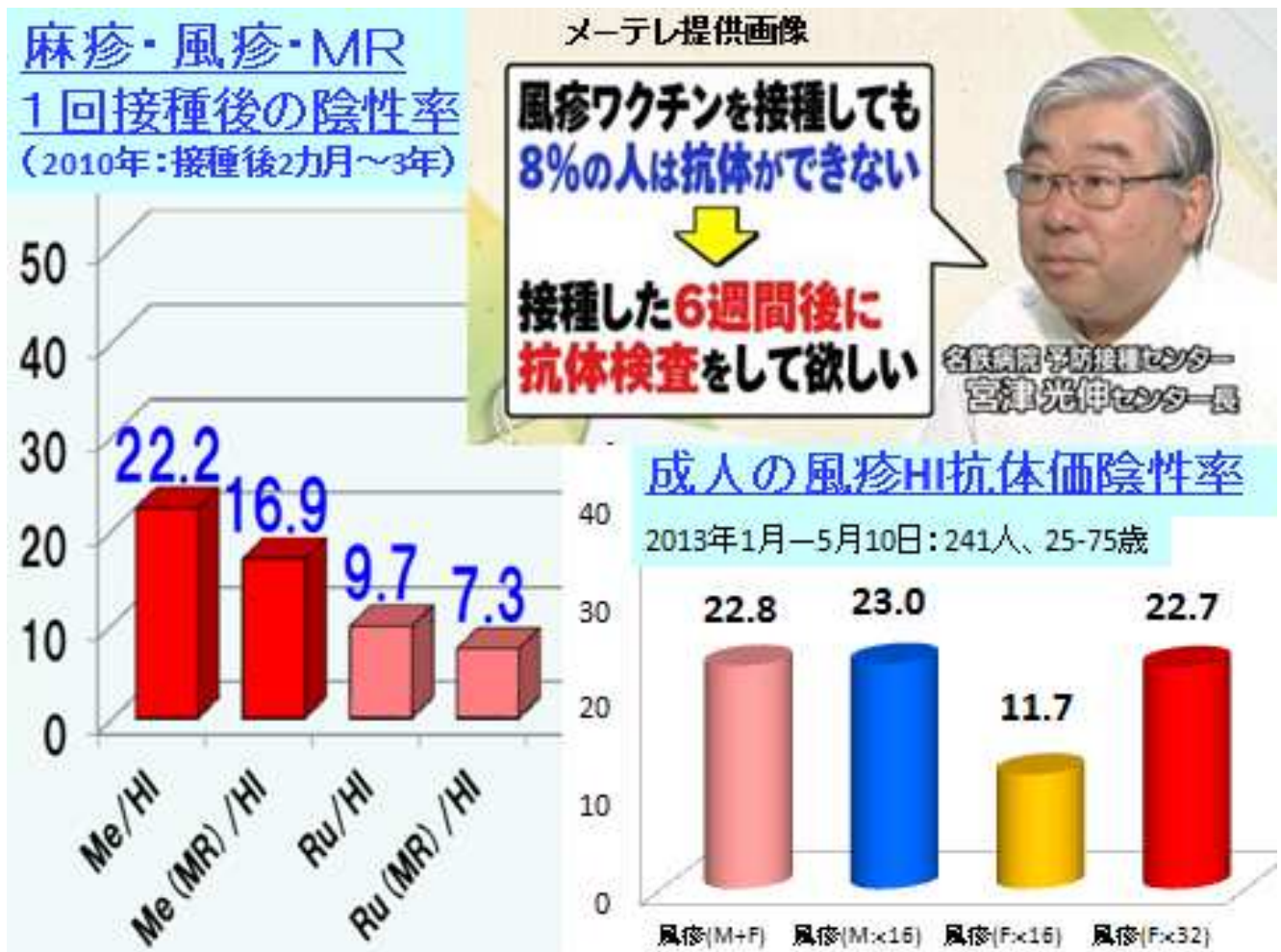


MR ワクチン接種と成人の風疹 HI 抗体価保有率について

全国的な風疹の流行に際して接種希望者が急増しているが、無駄なワクチン接種を避けるために、麻疹・風疹・おたふく・(水痘)の3-4種類の抗体検査を施行して、陰性者に対してのみ追加接種している。2013年1月から5月10日までの241人(25~75歳:M;113人/平均年齢36歳、F;128人/同34歳)の集計で、男性16倍未満、女性32倍未満を陰性者として男性は23.0%、女性は22.7%、全体で22.8%陰性であった。検査しないで接種すると77.2%は無駄な接種になる。また風疹ワクチンの陽転率は、乳児で90.3%(風疹)~92.7%(MR)であり、接種後6週間後には確認検査しないと安心はできない。今回、名古屋市ではきちんと検査して陰性者のみにMRワクチンを無料で接種することとなった。後日再検して陰性なら追加接種にも無料で対応できる。より有効で安心な対策である。ちなみに、麻疹は12.0%、おたふくは58.9%、水痘は2.6%で陰性であった。次は、おたふくが課題である。成人にとってはより重症な合併症の心配もあり、対策が急務である。

麻疹・風疹・おたふく・水痘の抗体検査をしないで、無分別にMRワクチンを接種する自治体は、より必要な1期の定期接種の子どもたちへのMRワクチン不足をきたすことを理解していないばかりか、税金の無駄遣いであることに気が付いていない。しかも接種しただけで6週間後の抗体を確認しなければ、免疫を高めるという目的も満たしていない。陰性の人に接種しても8-10%は陰性のままであり、危険にさらされていることに変わりはない。先に検査をしないで接種すると約80%のワクチンは無駄になる。その後の検査もしなければ必要な人(22.8%)の8%、つまり約2%の人は危険なまま放置されている。それがあなたです。



名古屋市の風疹予防接種費用助成制度の概略

1. 予防接種費用助成の対象者

名古屋市に住民登録がある方で、(1)、(2)の条件をいずれも満たす方

(1) ア～ウのいずれかに該当する方

- ア 妊娠を希望する女性
- イ 妊娠を希望する女性のパートナー
- ウ 妊娠中の女性のパートナー

(2) 事前の抗体検査の結果が以下に示す数値に該当し、風しんに対する免疫が不十分と判断された方

※過去の検査(妊婦健診等)における結果でも可能とします。

(ただし、その後風しんにかかった場合や、予防接種を受けた場合は除きます。)

検査方法	男性	女性
H I 法	1.6 倍未満	3.2 倍未満
EIA (IgG) 法 (デンカ生研精製キット)	6.0 未満	8.0 未満
その他の検査方法 ※「4. 抗体検査について」を参照	H I 法に換算した場合、上記の数値にあてはまると接種医師が判断したもの。	

名古屋市の風疹予防接種費用助成制度の概略

名古屋市風しん予防接種費用助成制度 Q & A

Q1. 対象者について

Q1-1. 「妊娠を希望する女性」に年齢制限はありますか？

A1-1. 年齢の制限は設けませんので、妊娠希望の確認をした上で、予診票への記入をお願いします。ただし、明らかに妊娠が不可能な年齢の女性をご遠慮ください。

Q1-2. 妊娠を希望する、又は妊娠中の女性の「パートナー」とはどういう方ですか？

A1-2. 原則は夫ですが、内縁の夫等、事実上婚姻関係にある方も対象に含まれるため、「パートナー」という表現にしています。

Q1-3. 「パートナー」を証明するものは必要ですか？

A1-3. 「パートナー」の確認のために住民票や戸籍簿本の提出を求めることは現実的でないため、自己申告により予診票へ記入してください。

Q1-4. 妊婦健診等で抗体検査の実施歴があり、抗体価が基準値未満であった方が、助成制度開始前に接種した費用もさかのぼって助成されますか？

A1-4. 助成制度開始前の接種は助成対象外です。

Q1-5. 過去に風しんの罹患歴や予防接種歴のある方が、抗体検査を実施した結果、抗体価が基準値に満たない場合、助成対象となりますか？

A1-5. 対象となります。

Q1-6. 本助成制度を利用して予防接種を受けた方が、再度抗体検査を実施した結果、抗体価が基準値に満たない場合、助成対象となりますか？

A1-6. 対象となります。

風疹ワクチンの接種を希望の方へ

① 奥さんが妊娠初期(3-4カ月以前)の場合

御主人や子供、家族など妊婦さんの周りで、風疹に罹患したことがない、または不明、ワクチン記録もない場合には最優先。そして当日に麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査をする。風疹免疫があれば、その時点で安心。陰性の疾患は4週間以降に接種する。風疹の免疫がなければ、接種6週間後に風疹の免疫を確認してまだ陰性なら再度追加する。

② これから妊娠を考えている場合

ワクチンは接種しないで、先に麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査をしてから、不足分をまとめて接種する。そして6週間以降で再検査して免疫ができたことを確認してから妊娠準備する。夫婦、家族とも同様です。検査しないで接種してしまうと、風疹ワクチンの陽転率はせいぜい90-93%ですので、6週間後に確認するまで安心できません。また女性本人は2か月間避妊しなければなりません。

③ 奥さんが妊娠中期・後期(5カ月以降)の場合

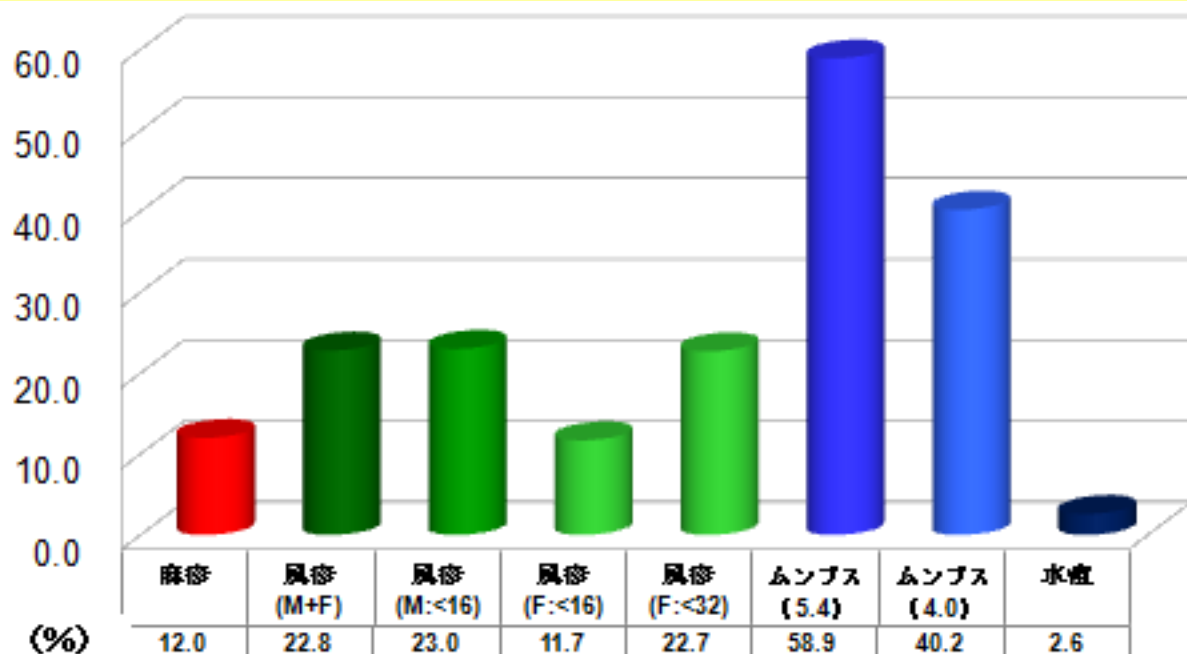
妊娠時の検診で風疹の免疫が陰性か低値なら、出産後の早い時期に接種する。授乳中でも心配ない。接種後2か月間避妊して、陽転を確認してから次の妊娠を計画する。妊娠初期の風疹罹患が先天性風疹症候群のリスクを高めます。中・後期の安定期に入れば大丈夫です。

④ 学校や職場で風疹の発生があった場合

集団生活の場では、事前に抗体検査で必要な免疫を確認しておくように推奨しています。2008年の関東の大学生での麻疹の大流行時に得られた教訓です。水痘は母体からの罹患情報が有効ですが、麻疹風疹おたふくかせについては罹患記憶も、医師の診断もあまりあてになりません。きちんと検査しましょう。2回接種しても5%は陰性です。

成人(24歳から75歳まで(平均35歳、241人))の抗体陰性率

2013年1月から5月10日までに、風疹ワクチン接種を希望した人の抗体検査の評価(水痘のみ190人)



麻疹PA法(256倍以上)・NT法(4倍以上)、風疹HI法(M 16倍以上・F 32倍以上)
ムンプスEIAIGG法(5.4以上)、水痘EIAIGG法(4.0以上)・IAHA法(4倍以上)